

近赤外線イメージング技術を用いた新しい肉眼病理解剖・マクロ病理学の展開

研究の背景：

病理解剖や日常の外科切除検体に対する病理診断は、肉眼的に病変を観察することが重要なポイントの一つになっています。肉眼的な観察においては可視光による画像撮影以外にそれをサポートする技術や装置は存在していません。そこで、新たに開発中の近赤外線イメージング技術を用いると、通常の可視光では得られない病変の観察が可能にすることが期待されています。本研究では近赤外線イメージング技術を使って、新しい補助診断ツールの開発を目指しています。本研究は国立がん研究センター中央病院、千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学、福井大学医学部腫瘍病理学、愛知県がんセンター愛知病院、千葉ろうさい病院、大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座、大津市民病院病理診断部、株式会社ニコンとの多施設共同研究として実施されます。

研究の目的：

本研究では近赤外線イメージング技術を使って、新しい補助診断ツールの開発を目指しています。

研究対象：

国立がん研究センター中央病院で研究許可日から2017年12月31日までに膵臓がんにより外科的切除をされた患者さんの中で解析時に包括的同意が得られている10名の患者さんを対象にします。診療に用いた後の組織検体や病理診断情報を含む診療録などの診療情報を用います。

方法：

診療に用いた後の組織検体や診療録などの診療情報を用いて、近赤外線イメージング画像により観察可能な病理所見を検討します。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を取り扱います。対象となる患者さんの識別は本研究専用別に割り振られた研究用番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の残り検体・診療情報は研究に利用しないようにいたしますので、いつでも下記の連絡先までご連絡下さい。

照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 病理・臨床検査科 平岡伸介（施設研究代表者）

TEL 03-3542-2511/ FAX 03-5565-7029